

新編水滸畫傳

五編

八



門 875  
號 48  
卷

新編水滸畫傳卷之四拾八

東武 高井蘭山翁 譯編

明治三十二年  
七月十日

○徐寧教て鈎鎌槍と使しむ

初、威風凛然として、のりて一人の大將之時に、一節の鈎鎌槍と  
て、自一場是と使し、諸の英雄一度に吐と喝衆て、皆く喝も  
休ざりたり。徐寧法軍に教て、云々の凡此の、軍器と使し、時ハ  
其法と肝要と。總て九變あり、初八歩に擡と云法と、多し出  
し。十二歩小変は、又十六歩に變じ、けより裏の法を多けて  
大將と、鈎を東南西北に向て、能く變化利用を、多し。硬と  
奪ひ、強と、鈎を我妻と、これと使して、多し。徐寧心を

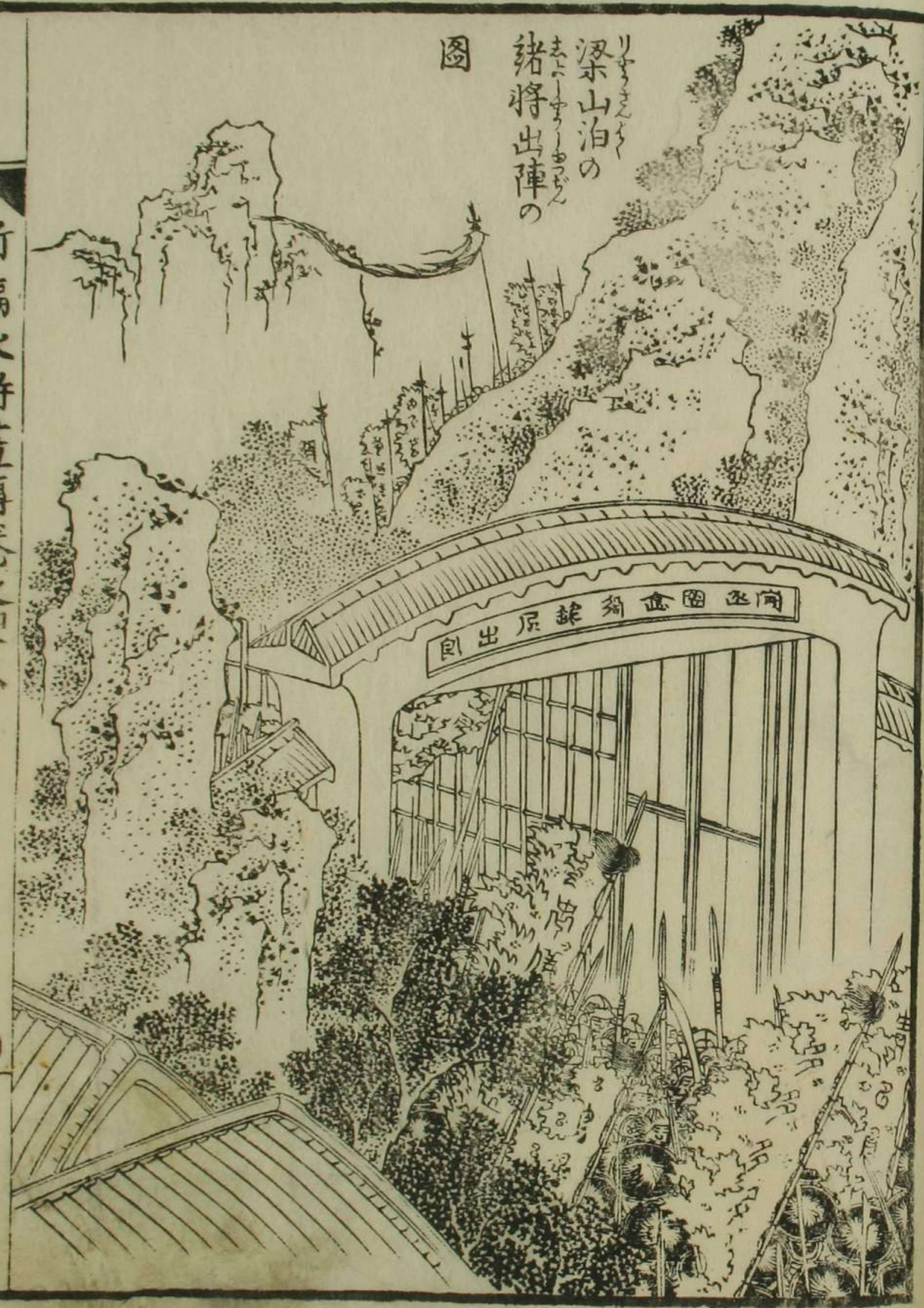
新編水滸畫傳卷之四十八

爲て精くは法と祀とべし。其の鉤鎌陰を俾て、瀕り出。秘密する  
 裏のよと。守時をり候て見せられ。張豪傑各これを見て。神  
 妙の言。驚り。いと感歎止ざり。なり。其人。東京のありて。教師とんば。  
 法人。金餘もいと俾候せり。今日。は奇巖を見て。法。既。飲。大。に。真。を  
 法。も。と。始。して。大。勢。至。夜。急。す。学。び。し。あり。半月の内に。先。子。人  
 修。りの。ま。た。を。熟。し。られ。ば。修。の。熟。する。に。及。び。と。宋。江。法。既  
 飲。と。共。に。敵。を。破。り。候。と。傳。し。り。官。軍。の。大。將。呼。延。灼。の。彭。玘  
 凌。振。と。控。れて。より。以。來。の。毎。日。水。辺。に。あ。り。て。戦。ひ。と。挑。し。り。水。軍  
 の。大。將。水。軍。水。辺。の。陣。と。あ。り。て。ま。を。屯。し。られ。む。呼。延。灼。の。死。山  
 水。山。の。支。隊。に。あ。り。て。暗。に。及。び。り。れ。ば。攻。め。る。べ。し。便。機。の。後  
 も。わ。げ。し。し。日。を。あ。り。て。赤。色。せ。り。梁山。泊。に。凌。振。に。命。じ。

其の砲と造りし。法。事。令。調。り。し。宋。江。法。將。小。將。して。  
 我。不。及。し。り。と。い。ども。敗。る。不。存。あり。あ。り。法。將。の。小。令。も。さ。や。  
 兵。用。が。ま。形。く。い。も。識。と。あ。り。ん。宋。江。が。い。り。明。日。へ。一。騎。も。軍。と。用  
 法。將。も。初。て。歩。戦。と。な。し。歩。軍。を。引。率。し。即。ち。備。を。十。に。以  
 ち。て。山。を。下。り。擅。に。敵。を。誘。て。水。辺。に。あ。り。て。彼。を。急。に。軍。と。を  
 り。て。逃。れ。し。ば。尽。く。芦。葦。の。内。に。逃。入。べ。し。芦。葦。の。内。に。縁。ど。め。  
 鉤。鎌。陰。の。ま。を。伏。せ。敵。の。馬。軍。已。に。逃。む。ば。鉤。鎌。陰。の。伏。を。一。夜  
 に。並。ひ。起。し。り。夾。で。攻。め。し。べ。し。敵。と。法。將。と。あ。り。ん。兵。利。が  
 云。け。計。策。を。神。妙。に。徐。寧。が。ま。鉤。鎌。陰。の。ま。へ。か。くの。下。り。用。こ。こ。を  
 ん。い。ま。利。録。多。し。遠。不。利。急。と。個。へ。あ。り。て。傳。し。られ。ば。宋。江。は。日。歩。軍  
 を。十。隊。小。分。て。法。將。に。あ。り。初。り。劉。唐。杜。遷。一。隊。を。領。し。楊。弘

楊雄一隊を飲し。楊雄陶宗旺一隊を飲し。志全鄧飛一隊  
 を飲し。解珍解寶一隊を飲し。鄒潤鄒捷一隊を飲し。王英一隊  
 青一隊を飲し。薛永馬麟一隊を飲し。燕順鄭天壽一隊を  
 飲し。楊林李雲一隊を飲し。十隊の歩軍二十隊は小徒先山  
 と下て敵を誘引し。又李俊張橫張順三阮二童孟康亦六人  
 水軍の大船を引きて救急を以て花榮秦明李忠徐寧を  
 孫立歐鵬亦六人各各に引きて山辺に立て戦と挑こ。凌  
 振杜興亦各各の砲を放し。徐寧湯隆二人共に鉤鎌鎗乃  
 去と掌持。中軍より宋江に具用。公孫勝戴宗呂方郭盛亦大軍を  
 引し。号令を下し。各陣柵をもち。宋江已に子かど  
 定めし。夜三更の時に先鉤鎌鎗の去と下して。四方に埋伏

せし。めは更の前後十隊の歩軍山を下り。凌振杜興の去と如に  
 砲架を設け。持々の砲を架し。徐寧湯隆各軍器を拿て水  
 邊。亦更にきて。宋江が中軍の入り山を下り。別ち水と浦と  
 鼓吹振喊の聲を揚て戦を挑む。呼延灼はひ髪を曳て大不怒り  
 先鋒韓滔と馳て。敵の動靜を探り。先鋒次に呼延灼許賜  
 の賜を烏驢の名に赤糸鉄棒を搦し。彼連環軍を引て  
 陳勢を對し。先鋒韓滔已に回て。呼延灼と商議して。云り。ハ  
 正南の方に一隊の歩軍あり。只そ何れより来り。めると。呼  
 延灼が云。撥ひいさうの處より来りし軍。去と。呼延灼は。連環  
 馬軍ををめて突破り。韓滔を去に後し。別ち百の軍を引  
 て馳出し。又東南の方に一隊の歩軍出馬。呼延灼を去て。



梁山泊の  
諸將出陣の  
圖



徐寧衆兵の  
鈎鎌鎗と教示  
の圖

へい つかつら  
まを分ちてとんとせしぬに。又西南の方に一隊の軍を置きて、  
翻し鼓を搦て戦ひを搦む。韓滉を見て再び去りて、  
別ち呼延灼と對して云々、南の方に三隊の軍を置きて、  
梁山泊の旗号を呼延灼に告ぐ。彼久しう出陣せずして、  
我を搦む。必ず計を成すべしと、未だ去らざるに、  
響く。呼延灼これを見て、怒り罵て云、  
汝ら南の方の敵を退拂せんと搦し、  
歩軍現れ出し、呼延灼が云、  
汝ら南の方の軍を攻め、  
汝ら南の方の軍を攻め、  
を突べしと、  
出れば、呼延灼を見て、

歩りに放て天地を響せしむ。友軍を殺し、自ら死せり。

宋江大連環馬を破

呼延灼は光景を見て、焦燥。韓滉と共に去りて、  
一向奔走して、  
一隊の軍を置きて、  
梁山泊の旗号を呼延灼に告ぐ。彼久しう出陣せずして、  
我を搦む。必ず計を成すべしと、未だ去らざるに、  
響く。呼延灼これを見て、怒り罵て云、  
汝ら南の方の敵を退拂せんと搦し、  
歩軍現れ出し、呼延灼が云、  
汝ら南の方の軍を攻め、  
汝ら南の方の軍を攻め、  
を突べしと、  
出れば、呼延灼を見て、

討に中りしをて見て大に慌急にるを引回して南の方へ逃れぬ  
に。背後に炮の聲大に奔り。山小漫り時を過く。於て歩軍ども  
追來る。呼延灼韓滔。軍多く捉りぬ。易く思ひ一向に面小  
繞て彼軍を收め。壘に西水を帯て六里許馳りぬ。以辺に又  
一隊の人を突か。高先不穆弘。穆玄二人の豪傑。旗を揮高。日く  
刀を舞し。大に呼て云。汝彼軍いんぞ。と下て。跡をせざるや。呼延  
灼大に怒り。鉄棒を舞し。壘に穆弘不亦てくる。穆弘終ふ二合  
戦て。遂に逃る。呼延灼計め。んとと恐れ。敢て追戦せむ。水  
の大流を帯て。山坡の下に奔りぬ。又一彪の玄斬て出る。高  
先に二人の豪傑。旗を揮高。一人の解珍。又一人の解宝。各旗  
を捲て。壘に呼延灼と帯て。擲る。呼延灼鉄棒を巻て。二人

を迎へ戦いま。十合あむ。ざるに。友人曰く。身を回して逃  
る。呼延灼才里許。趕りぬ。たより二十口人の沟。壕を  
の玄突出。呼延灼散て。戦と好む。と東水の方小をりて。きり  
行。以辺ふ。又王矮虎一丈。玄を引て。呼延灼と追趕し。うども  
終小追著ず。して。山陣に馳回り。呼延灼の大。小折。破れ。東北  
の方小。馳走り。り。叔宋江の。全を呼し。玄を收め。先山陣小上。と  
三軍を賞せり。以度。三子の。軍を。才。鉤。鎌。鏃。を用。く。鉤。刺し  
軍士。未。へ。そ。く。活。捉。て。山。陣。に。引。せ。り。又。千。の。歩。軍。亦。も。二。面。より  
圍。れ。急。に。探。れ。ん。と。士。率。を。た。た。て。又。鉤。鎌。鏃。小。鉤。往。ら。ぬ。  
後。に。擒。み。り。り。り。外。水。辺。小。逃。れ。し。軍。を。は。一。と。水。軍。の  
隊。より。生。捉。り。り。初。の。戦。に。呼。延。灼。小。步。珊。と。小。陣。ま。り。び。に

酒肆ホ再び嚴に建て。又右の既成を考へてせり。劉唐  
 杜遷の韓滔を活捕て山陣に引せられ。宋江自ら伴と解て上  
 に往。懇懇小礼とて。親方小随順の事と保めり。彭玘凌振も  
 再三保をを加へ。韓滔深く宋江ホが義を感へ。遂小心を  
 傾て既成と取りふり。宋江又人を陳州小純韓滔が妻子と山陣  
 に邀へて。一処に在しめ。後既成は一旅小連環軍を破り。義  
 干の軍を破りて。皆大に收む。毎日酒宴と役け。既成の功と褒  
 たり。呼延灼は干の友軍人をも失ひ。一放て系小回し。只一  
 騎才途に走りおひり。されば盤纏の行わび。して盛甲鞍木に鏤る  
 金とて。これと盤費と。暗に心中に悲ひり。今日我ひ小歩負て  
 身に罪と干り。おめれを奔ぐ。困れを投ぐ。今更何れの所に

落行可なりんやと。驚く沈む。して在り。忽ち悲ひ出。青州乃  
 慕容知府の昔日已に相見し。我とぞ知り。只宜しく彼と我  
 難と避。慕容愛妃の一と借て。帝の心懐りと慰めり。再び軍馬  
 を引て梁山泊を攻めり。遂に仇と報ひ。如奪と奪んと。比より  
 重小喜州と。而て落行第三日の午の午刻。小歩て對面。痕れし。お  
 今日先子く。獸人と。我と旅船と。求め。利ち小厮と。存て。云らる。我  
 是朝廷の軍友なり。て。這回梁山泊を攻められた。不幸なり。て。利と失ひ。  
 今又喜州の慕容知府が方へ。懇んと。汝須らく。我が為ふるに。喂  
 養へ。彼るは。天子より。命せし。良る。以て。名と賜。雪鳥。雖も  
 云。必す。等。宋小。なる。こ。な。れ。明日。再び。云。と。就。以。て。の。わ。我。を。汝。と  
 貴すべし。小厮が。云。は。處の。近。小。桃花山あり。山の上。強盜。住。に



然て友人の改帳あり。第一人の赤虎。第二人の李忠。第三人の小霸王。周通と  
 中。山中。小六。七百の小城を集め。あつて往來の人を悩。貨と奪。え  
 相公。今。青。自。利。心。と。喚。あ。う。多。呼。延。灼。が。云。我。を。是。万。丈。不。尚  
 の。勇。わ。り。彼。後。家。子。騎。あ。る。我。彼。馬。に。乗。て。働。ふ。何。の。悪。く。と。わ。ん  
 汝。只。う。く。る。不。暇。養。を。け。さ。ほ。し。と。と。食。久。し。く。酒。合。と。用。ひ。さ。後。の  
 う。に。歌。を。り。む。む。に。三。更。の。最。後。に。あ。て。屋。の。後。に。叫。ぶ。勢。わ。り。し。ふ。呼  
 延。灼。あ。に。祝。て。こ。ふ。と。も。る。に。彼。小。廝。は。誰。に。立。て。只。願。叫。ぶ。呼。延。灼  
 言。て。云。汝。何。ゆ。え。不。再。三。か。く。叫。ぶ。や。小。廝。答。て。云。素。今。難。の。害。く。を  
 ぞ。て。惟。く。思。ひ。暗。に。祝。て。これ。と。も。る。に。果。して。城。難。と。推。倒。し。て。我  
 と。入。相。公。の。る。と。休。れ。ぬ。相。公。最。面。を。見。更。尚。遙。に。火。把。の。光。あり。  
 呼。延。灼。が。云。彼。我。が。る。と。休。ん。で。何。れ。の。知。ふ。や。小。廝。が。云。彼。迎。の。路

を。行。ひ。必。然。挑。花。山。の。城。を。う。ん。只。挑。花。山。不。引。回。し。う。ん。呼。延。灼  
 ら。れ。と。呼。て。大。不。忍。と。さ。急。に。旗。持。捨。れ。て。小。廝。と。共。不。二。三。里。降  
 退。蒐。る。に。火。把。の。光。忽。ち。見。え。流。して。そ。行。方。と。知。り。呼。延  
 灼。が。云。帝。より。湯。つ。る。と。云。し。て。これ。と。い。う。せん。や。小。廝。が。云。明日  
 曹。州。府。に。迎。む。ひ。て。多。く。友。軍。を。遣。し。共。に。馳。て。城。を。捉。へ。む。と  
 彼。を。再。び。遣。す。と。い。ひ。呼。延。灼。心。中。と。と。愁。へ。暗。と。待。り。に。そ。や  
 又。更。に。あ。り。し。ふ。衣。甲。と。小。廝。に。担。せ。て。走。り。に。曹。州。府。に。馳。り  
 乃。り。已。に。城。中。に。入。り。れ。ば。天。色。早。晩。て。日。の。友。府。不。知。る。と。能。は。し  
 旅。者。と。偽。て。手。夜。と。さ。し。翌。日。お。く。方。府。不。知。て。慕容。知。府。不  
 ま。る。と。い。ふ。知。府。大。不。忍。と。云。於。軍。は。已。に。梁。山。伯。の。城。を。征。伐  
 あり。と。こ。を。呼。め。に。何。ゆ。え。は。誰。に。あ。り。む。し。と。呼。延。灼。我。の。決。才。一

詳に訴ふ知府是とて呼て云々の。將軍已に若干の人もを来ひ  
 ろひて、沙梅子万を来せ。是又功と慢るの罪にわらひに、賊も奸計  
 に中りしへんをすまらぬ。將軍先心と安んじ、人として懇に懇  
 りり。呼延灼又言を傳れ、方こそ若るに。知府が云、我が支配の地  
 面、小盜賊、初て多し。先、桃花山の賊と、數を平けて、將軍の馬を  
 九獲し。次、小又二龍山、白虎山の強賊、亦も掃蕩し、將軍寫く  
 力と受し。又、這等の強賊と、亦平け、我必ず將軍の爲、小帝  
 奏、呼延灼、再び人をも將軍に与へて、梁山泊と、擊し、わりせん。呼延灼  
 是とて、呼て、深く感謝せ。知府於て、呼延灼と、餐、客、廳、に  
 歌せり。呼延灼は、三日と、色し、多に、孫、子、くる、と、九、回、さん、と、を  
 歎し。即日、知府、小告て、迷、以、軍、をも、催し、わ、と、祝、ひ、し、ふ。知府

不、亮、小三子の軍をも呼て、呼延灼、小借、与、し、呼延灼、人をも、呼て、大、小  
 恩と、謝し。翌日、おく、と、引、て、お、出、せ、に、桃、花、山、へ、と、来、り。扱、又  
 桃、花、山、の、主人、の、孫、子、呼、延、灼、の、李、公、小、霸王、周、通、は、夜、に、來、り、踢  
 雪、鳥、騷、る、と、呼て、大、小、祝、び。毎、日、山、陣、に、在、て、酒、宴、を、催、し、り、知、に、  
 甚、州、より、軍、をも、來、ると、呼し、ふ。小霸王、周、通、が、云、李、公、ハ、率、し、山  
 陣、を、も、り、又、兼、友、軍、を、退、ん、と、一、百、有、餘、の、兵、を、引、て、山、を、下、り  
 たり。呼、延、灼、ハ、已、に、人、をも、引、し、山、前、に、お、り、當、先、に、を、て、大、に  
 呼、り、罵、て、云、り、ハ、汝、奸、賊、何、ぞ、も、と、下、り、て、絆、を、遣、り、や。周、通、も、  
 呼、て、陰、を、撥、り、る、と、飛、せ、て、陣、前、に、お、出、し、呼、延、灼、鉄、棒、を、舞  
 して、周、通、も、亦、て、鬼、の、周、通、これ、と、迎、へ、て、孫、さ、ま、と、交、へ、戦、鬪、六、七、合、  
 に、お、て、周、通、も、致、す、と、能、は、意、に、回、し、て、山、陣、に、跑、上、る。呼、延、灼、亦

聖降も逃るが伏まのやあらんと思れ再び陣を回らざるや屯屯。  
 周通の山陣に近上て呼延灼が武勇を李忠小若て云るハ。我  
 彼に敵するに能は。慌忙しく逃回ぬ彼り山陣に近上るべ。  
 何ぞぬこれと防んや。李忠が云我少二竜山宝珠寺ハ。花和  
 尚魯智深在て山陣とせり。又喜面獸揚志とやんりハ。豪傑  
 一組あり。頃日まに新に行志武松と云志加り。各義夫不齒の  
 勇ありて子軍万石の内に入ると拾も人さふを引く。と彼  
 我今一封の書券を送て救を求むべ。若は度危急を脱れらば  
 彼が幕下小属。毎月進貢を送るべ。周通が云素も若く  
 彼陣ハ豪傑ありとて及べり。只恐くハ彼和尚昔日のこせ  
 根て来り救ふとあるまじ。李忠亦笑て云。昔日彼汝を歩のこるべ

我杖宝を奪きて逃るに。何ぞ却て我ホと根んや。爾又彼ハ武性  
 の英雄之我書券を以て援を乞ふ。彼必定自らを引て  
 救ふべ。汝と緩ふと云れとて遂に一封の書券を修へ相訓とる  
 聰明の小城友人と後山より下して二竜山小若り友人の小城  
 書券を携て急ぐ。第二日の午の上刻に二竜山宝珠寺に到り  
 ぬ。山の際ハ大小約て七人あり。三人の大匠飲身ハ花和尚魯智  
 深。第二ハ喜面獸揚志。第三ハ行者二郎武松。又口人の小匠飲ハ。  
 先一人ハ金眼彪施恩。び人のめと孟州牢の施管管が息なり。が  
 昔武松張都監が一家の男女を殺す。耐支府より施恩が我が事也  
 干らぬ。急に武松を控へ出すべ。再三責るが。一家早く連夜  
 孟州を走りお久しく吳竹は落魄を。肉支親已にお果るに

より。施恩の再び武松を台て山小上り遂に止て既成となりぬ。又一人の操刀鬼曹正は人の初魯智深揚志と共に山宝珠寺を奪て登龍を殺し。其後久しうして山陣にあり加りぬ。又一人の菜園子張青又一人の張青の妻母夜叉孫二娘は夫婦二人の系孟州道十字坡と云ぬに住し。其の往來の旅人を害し貨を劫ひりしが其後家と捨て日く山陣に上りぬ。其時諸將領總て七人宝珠寺の殿中に集し坐りぬ。又桃花源より書筒を寄りて告し魯智深終て云我嵩初天岳山と初てりし時。桃花源小一宿し。彼周通と痛く歩。已に我小及んし。其の如に彼赤虎將李忠ハ原來我を識認。早速我を伴て我を山陣に誘。再三て山陣の至と我小讓んとせし。我孰く彼ら友人とせり。其の室

と懼れ相と悟んで其志爽々たりし。我遂に彼小が成宝と奪る。山を下りぬ。後今日援をせしむ。定て曉曉あり。先使と呼んで過んとて。使と殿の下に呼し。使者恭再おして云るハ。我州の慕容知府頃日一人の大將を得。其將は某日梁山泊を攻て放し。呼延灼と云英雄之知府今は死せし。先桃花源二竜山有虎山と掃ひ清めて其後又梁山泊を攻んと。數千の人有と呼延灼小借て。某が山陣を攻む。滅亡且夕にあり。其故に三天王の救いと云る。其肯て出る。吾輩の後ハ必ず大王の募下小属し。毎月進貢と献ずべし。李忠周通慙小。其の如く仁慈と云ふ。其書管と見し。揚志と云各山陣にあり。今も防死と後。時常る。稀も人馬の力を勞し。其の如く本援を



桃花山の賊  
名馬を竊去  
圖

出す下りと思へば第一の豪傑の名を腐さんとぞ思ひ。第二の友軍も  
桃花山を破る。我山時ぞ怪く見ん。是所謂唇亡びて齒寒しと  
云。虞虢二國の隙不驚し。比度は張喜孫二娘施恩曹正二人を  
留て山時とせ。我軍三人自ら又百の人数を引て。桃花山を  
援べしとて。已に人馬を催し。使は速小救を向べしとの  
近路を渡し。あつて四しめ引續て三頭領人数を率し山を  
下り。林苑山へ向ひる。相李忠の二竜山の消息を告て大不悦び。  
自ら千百の人も率して馳下り。先は延灼が陣小突り。呼  
延灼えんとて牙を嚙齒と切り。彼鉄棒を搦して。改前にを  
か。おちり李忠と迎へお戦ふ。李忠は祖父より武藝を業として  
名もこ勇士ありし。も。呼延灼が武藝は大不劣り。幾十合

をり残ひしに。そや力衰へ急に逃走す。呼延灼これとぞ。汝何  
國に逃えんやと。後小慕ひ追ま。湖山の腰に斬りしに。小霸王  
周通木石と面のこつ。お下りし。呼延灼をよるを。後  
馬と田し山を下り。如に軍中大に強し。呼延灼其れと。同に後  
軍着て云。遂後より一虎の軍を飛がごとく馳来る。呼延灼も  
後軍に續り。あて受るに。高先に一人の大和尚一疋の白馬に乗て  
跑来り。恰も猛虎の吼がごとく大驚す。呼延灼も。汝梁山泊小  
道散れらぬ。放軍いんを。我軍を犯さんと欲すや。呼延灼  
大不怒。鉄棒を搦し。とて飛せて。魯智深も。同く  
鉄棒杖を揮て。お迎へ互に龍の勢ひ虎の雷を。軍着て交へ  
一往一来秘術を。そして。我ひるに。精神ますく。盛んふして。

呼延灼又密ひそ不お忠ちゆう道だう以い械けいも日ひ々々。万まん丈ぶ不ぶ尚しやうの勇ゆうあり。いいんんぞ  
 以い山さん陣じんに。是これらああ人のごとと豪かう傑けつあり。是これら必ひつ定てい有ゆう名なの別の者あり  
 んんととて又また七しち八はち合がっ我がひひるる不ぶ揚やう志しも私ひそに呼こ延えん灼しやくが武ぶ藝ぎの者あり  
 ららとと見みて深ふかく心こころに感かんづくるると勅ひさて引ひ回まわししりり。呼こ延えん灼しやくも教あ  
 て追おひひ共いにいとと收とめめ本ほん陣じん不ひ引ひききりり。魯ろ智ち深しんへ揚やう志し武ぶ藝ぎの者と  
 高かう嶽たつししてて云いふふ。我わが軍ぐん初はつめてて以い此こ不ぶ破ぱりり。敵てき陣じんと近ちかく陣じんと對たい馬ば  
 小せう軍ぐんししりり。且また二十にじゅう里り引ひ退ひて陣じんをあ明あるる身みをいびび。務む負ふとと交ますす  
 とと。遂つひにいとと收とりりて山さん崗がうの下に屯とんししぬ。叔しやく呼こ延えん灼しやくの聲をきくく  
 心こころ中ちゆうにいおおひひるる。我わがの一攻こう不ぶ破ぱてて械けいと生せい提だいんんととあありりしし。小せう軍ぐん  
 知しらんん彼かれれ。友人ゆうじんがいれれ。敵てき不ぶ遇ぐんんとと。是これら勅ひさてて我わが命いのちの掛をかけけと。  
 只ただ願ねがひひしして居ゐるる。如ごとくく。慕ぼ容よう知ち府ふ使し者しやとと馳ちていふふ。ハ。將しやう軍ぐん

呼延灼又密不忠道以械も日々。万丈不尚の勇あり。いんぞ  
 以山陣に。是れあ人のごと豪傑あり。是必定有名の別の者あり  
 んとて又七八合我ひる不揚志も私に呼延灼が武藝の者あり  
 らと見て深く心中に感づくる。と勅て引回しり。呼延灼も教  
 て追ひ共にいと收め本陣不引きり。魯智深へ揚志武藝の者と  
 高嶽して云ふ。我軍初めて以此不破り。敵陣と近く陣と對馬  
 小軍しり。且また二十里引退て陣を明る身をいび。務負と交す  
 と。遂にいと收りて山崗の下に屯しぬ。叔呼延灼の聲をきく  
 心中にいおひる。我の一攻不破て械と生提んとありし。小軍  
 知らん彼れ。友人が入れ。敵不遇んと。是れ勅て我命の掛をけと。  
 只願ひしして居る。如く。慕容知府使者と馳ていふ。ハ。將軍

子くを引回し。且城をもち。今白虎山の強賊孔明孔亮人  
をせ。於し馳来り。擅に糧を借んと欲に。若くは保ちあらん。意を  
取。陳をべし。と借。借し。うり。は。呼延灼。これと。呼て。喜ひ。は。使  
撥。不。系。し。は。夜。三。軍。を。引。て。去。州。不。取。り。り。翌。日。魯。智。深。揚。志  
武。行。者。の。各。を。引。て。喊。を。叫。んで。攻。来。り。り。に。敵。の。疎。を。う。は。只。一。人  
の。を。も。り。り。魯。智。深。を。見。て。大。に。愕。し。如。に。李。忠。周。通。兵。を  
引。し。山。を。下。り。恭。し。く。三。人。の。英。雄。を。信。て。山。路。に。よ。り。山。海。の。松。柏  
品。と。役。け。を。専。に。款。待。り。り。扱。呼。延。灼。の。を。引。て。城。下。に。あ。り。り。に。  
そ。や。一。彪。の。軍。を。来。り。り。大。ね。白。虎。山。の。下。る。孔。亮。公。の。男。毛。玝。是。  
孔明。独。火。單。孔。亮。は。兄。弟。向。に。日。村。の。家。を。人。と。争。ひ。と。惹。出。し。  
遂。に。家。を。人。が。一。家。の。人。を。斬。殺。し。て。白。虎。山。に。上。り。今。已。に。七。八。百。人

の。虎。と。集。り。て。山。路。を。も。り。青。州。城。を。入。り。抜。ぐ。叔。父。孔。賓。と。い。ふ。の  
あ。り。り。が。慕。容。知。府。に。生。捉。れ。入。牢。し。り。る。由。急。孔。明。兄。弟。を。救。ん。が  
を。あ。け。度。を。起。し。て。去。州。不。取。去。遂。に。呼。延。灼。が。去。に。行。遇。て。  
互。に。喊。の。聲。を。合。せ。て。戦。を。挑。む。呼。延。灼。は。れ。を。も。り。と。躍。せ。持  
を。隔。し。て。陳。希。正。に。馳。出。し。慕。容。知。府。の。城。樓。の。上。に。在。り。て。戦。を  
一。覽。に。孔。明。を。推。て。呼。延。灼。と。逐。へ。去。り。魯。を。振。て。お。残。ひ。漸  
二十。餘。合。ふ。り。り。呼。延。灼。暗。に。知。府。が。希。正。を。夜。を。現。し。  
と。思。ひ。於。て。孔。明。が。搦。突。を。歩。落。し。て。た。の。も。を。伸。し。遂。に。孔。明  
を。上。り。て。活。捉。り。り。孔。亮。を。見。て。突。出。し。り。も。呼。延。灼。不。款。を  
と。能。く。多。に。引。回。し。逃。走。る。知。府。城。樓。に。在。り。て。見。る。に。  
呼。延。灼。を。引。て。追。蒐。小。城。百。十。餘。人。を。生。捉。て。去。り。呼。延。灼。は。面。八。方



歩散せり。孔亮は這くの陣を命とせしむる。彼軍少しと收  
て古廟の内に歇り。呼延灼は孔明と活捉て城中に入し。知府  
大不眠び。先孔明を牢中にせしめて孔賓と一処に關ぬ。知府又呼  
延灼を戮勞を慰免。今日まをわくに孔明と捉へると称英し。且  
桃花山の消息を伺ひ。呼延灼若くは桃花山の賊と捉ん。囊  
の内を探て物と見たり。又一夥の賊を來て我を助け  
し。由未だ彼を生捉は。彼賊を大に一人の大和尚。一人の大漢子  
有り。若くは未だ彼を捉は。彼賊を大に一人の大和尚。一人の大漢子  
彼を賊と見たり。武藝は武藝。若くは未だ彼を捉は。彼賊を大に一人の大和尚。一人の大漢子  
和尚は延安府老種。經畧が幕下の提轄。魯達と云。一老。今ハ  
發せしめて傳し。若くは未だ彼を捉は。彼賊を大に一人の大和尚。一人の大漢子

子は東京殿帥府の判使官。喜面歎揚志と云。又一人の  
者。武松と云。そのあり。是ハ別系陽恩の上。猛虎と拳殺し。若  
武松は。若くは未だ彼を捉は。彼賊を大に一人の大和尚。一人の大漢子  
中。威威。若くは未だ彼を捉は。彼賊を大に一人の大和尚。一人の大漢子  
攻。若くは未だ彼を捉は。彼賊を大に一人の大和尚。一人の大漢子  
若くは未だ彼を捉は。彼賊を大に一人の大和尚。一人の大漢子  
藝の精。若くは未だ彼を捉は。彼賊を大に一人の大和尚。一人の大漢子  
果して魯達揚志とあり。つら。若くは未だ彼を捉は。彼賊を大に一人の大和尚。一人の大漢子  
若くは未だ彼を捉は。彼賊を大に一人の大和尚。一人の大漢子  
近日。若くは未だ彼を捉は。彼賊を大に一人の大和尚。一人の大漢子  
物と累て。若くは未だ彼を捉は。彼賊を大に一人の大和尚。一人の大漢子

翌日孔明の彼軍と引て魏行りぬ。林の中より一彪の人を  
 出向先に一人の大將あり。孔明これぞなるに。既院或の者なりしを  
 忽ちふるより飛りりねと引て云々。分る子。必其意をさす。或は行者  
 急に礼を回して云。是下兄弟友人。白虎山小立して陣をちりぬ。  
 と。笑し由急敵度う訪んとせ。歎まれ。第一の山せり。と。得ず。  
 第二の山は不。明るるに依り。其く。疎遠におるぬ。今日。又何ホの  
 事ある。試に出る。一ひぬ。や。孔明。量て。叔父孔明と救んじて。  
 兄孔明が活捉れしとせ。一。祥に。死り。り。り。り。武松が。是下。先。心。せ。  
 悩し。お。よ。と。う。れ。我。今。七。人。の。豪。傑。と。義。と。結。ん。で。二。龍。山。小。立。し。て。  
 桃花山の李忠周通官軍の緊し。一。襲。ふ。が。ぬ。一。救。の。云。と。我。軍。に。  
 求り。る。由。魯。揚。友。既。然。我。よ。う。先。に。云。と。引。て。馳。來。り。唯。の。呼。延。

灼と得て交へて。後日。魏。ひ。一。く。我。い。ま。と。揚。負。交。せ。ざ。り。一。如。の。呼。延。灼。ハ。  
 昨夜。云。と。引。て。魏。州。に。回。り。ぬ。李。忠。亦。是。と。捉。て。我。ホ。三。人。と。山。陣。小。信。  
 て。餐。意。一。別。ち。呼。延。灼。が。帝。より。召。飲。し。一。名。を。と。桃。花。山。小。  
 偷。ぬ。て。去。り。と。今日。我。軍。に。送。り。一。由。急。我。先。是。と。率。て。二。龍。山。  
 不。敵。の。魯。揚。友。と。小。刻。後。より。回。ら。ん。と。我。是。下。の。と。と。彼。友。人。  
 小。若。再。び。云。と。起。し。て。魏。州。城。を。攻。破。り。速。小。是。下。の。叔。兄。友。人。と。  
 救。ふ。一。孔。明。是。と。呼。て。大。に。悦。び。再。ね。し。て。感。謝。し。ぬ。武。松。は。如。  
 に。對。て。皆。く。待。り。り。果。し。一。魯。智。深。揚。志。嚮。と。並。し。己。に。武。松。が。  
 前に。あり。一。武。松。別。孔。明。と。引。て。友。人。に。見。え。し。り。一。祥。に。若。く。云。  
 乃。ハ。我。向。に。宋。江。と。名。に。は。孔。明。が。家。に。送。ぬ。し。て。多。く。親。結。と。為。り。  
 ぬ。今。彼。叔。兄。友。人。と。魏。州。に。捉。れ。自。一。是。と。救。も。ん。力。は。我。が。客。

官しく義と称す。二竜山桃花山白虎山は三山の講を集めて再び  
 青州城を攻め、降し慕容知府を殺して、呼延灼を活捉す。呼延灼は  
 孔明を救て、城中の玄輪を奪ひ、各を分て、山陣の手に借ふ  
 べし。却て、公の号をいふ。魯智深が既に捕らふ意に入ら  
 ず、僅す。とて、別桃花山に人と馳て、は事と告ふ。高時揚志、  
 云々の言、州の城柵を破りて、人々強勇なるに、呪や又大別の時  
 延灼を誦し、六路の敵、目どろろ、自ら威風を減すに、加  
 され、魯智深、州を攻んとす。我一念に順ひ、或武行志、同て云揚  
 公、何ホの良計ありや、恐くは、毛と承ん、揚志が云、青州城を  
 須く大軍を借らば、我、梁山泊の及、時、面、宋公明の智仁勇を  
 兼り、良計、呪や呼延灼と、仇あり、れを、武、歩、宋公明の人をも

借べし。我、密に先、三山の人多くと、合せて、青州城を、競らん。孔  
 亮、自ら、梁山泊に、上り、急ぎ、宋公明の、合力を、借て、共に、青州を、攻  
 め、め、宋公明の、東、來、孔亮、兄弟、と、交り、睦し、こと、なれ、必ず  
 救ふ、と、知、は、こ、め、ん、唯、あ、は、は、列位、の、不、存、い、ん、と、理、論、不、及、先  
 孔亮、を、に、陣、死、て、看、ら、り、り

○三山義と聚て、青州を歩

二竜山の既、於、商、議、不、及、び、魯、智、深、が、云、今日、も、人、め、り、て、宋、公  
 明、の、徳、を、称、し、明日、も、人、め、り、て、宋、公、明、の、徳、を、称、し、誠、に、宋、公、明  
 の、大名、を、咄、と、恰、も、雷、の、耳、に、轟、が、と、い、ひ、人、必、強、高、世、の、義、士  
 あり、ん、が、ら、が、由、忽、に、天下、の、人、を、名、を、あ、ら、と、云、こと、ま、し、亦、若、彼、人  
 花、榮、と、な、れ、凌、風、山、小、居、ひ、し、時、我、已、に、死、行、ん、と、せ、り、如、は、

凌風山と棄て、乃方知くはと嘆く由急我路に止て来どおまき先を  
 孔亮いしく、忽見友人と救さんと歎ひわたり。親自梁山泊に訪て、宋  
 公明と信あり。我嘗に以初にきて、消息と信共に、喜州と攻  
 落し、是下兄弟が眼と奪ぐべし。孔亮これと嘆て大に悦び、子母  
 王くく魯智深小初け、已一人の乞と引て、遂に梁山泊へを棄て  
 魯智深亦三人の。又施恩曹正、弟小二百の乞と呼下し。軍中に加へ  
 乃、相李忠周通の魯智深が拒に、意どて山陣の乞と怪し、只四五十  
 人の小賊と留し、山を奪し、せを解の人を、いとくく引て山せり、路  
 に智深が乞と一初小乞合せり。孔亮の以日喜州と離れ、急し、六不日  
 に李立の店に到りて、梁山泊の乃と問り、に李立の以、驍を、見ん、  
 必ず躑躅め、とんと推察し、初孔亮小着て、云る、は、是下梁山泊の

路と信あり、何の事ありや。ま、何れの如う、事なる人なるぞ。孔  
 亮が云、宋の喜州より来れり。山陣小賊人あり、これと訪小、李立が  
 云、山陣は、乃、諸豪傑居候也。汝何ぞ、能、乃、孔亮が云、宋  
 初、宋大王と、乃、と歎也。李立が云、是下、已に宋、初、と訪、人、  
 先後、堂、小、入、て、歎、之、と、持、く、歎、待、乃、れ、也。孔、亮、深、く、こ、れ、と、謝、し、  
 一刻も、あ、く、宋、初、初、小、ま、ま、え、ん、と、と、歎、ひ、乃、り、に、李、立、初、孔、亮、と、信、  
 て、共、に、小、船、小、乗、並、に、金、沙、灘、に、小、去、て、岸、に、よ、り、遂、に、實、弟、と、  
 乃、船、に、中、に、は、是、と、嘆、て、自、ら、以、迎、に、出、て、迎、へ、し、孔、亮、已、に、宋、に  
 に、見、え、地、上、に、跪、て、大、小、哭、く。宋、公、明、云、是、下、心、中、小、何、ホ、の、難  
 哉、あ、り、く、哭、有、や、宜、し、我、小、若、也、我、亦、火、と、避、ず、し、て、是、下、の  
 難、と、救、ふ、し、孔、亮、が、云、宋、宋、君、小、別、れ、て、後、の、老、父、も、已、に、お、果、ぬ、

後ろぬに。兄孔明不覺日村の宿屋人と争と惹引し。彼が一家居く  
 殺害し。白虎山不逃上り。已に六七百の兵と聚る。山陵とちり居  
 る。ぬに叔父孔賓吉州の慕容知府小提入牢し。乃ち由急。素  
 兄牙これと救んと欲り。吉州と攻る。小彼呼延灼。孔明生提れ  
 叔父とも救ひゆず。割へ見と提れ。素源これと恨て。残ひし。虎  
 呼延灼小款すと能はし。大小放おせり。翌日才逢に於て。武行  
 者に遇り。ぬに彼素と引て。友人の既死和尚魯智深。青面  
 獸揚志小まうとえし。彼友人一とびまうとえて。あうも旧友のしく。  
 怒憤と奮兄孔明と救まん計と商儀して。魯揚。友既飲茶に。  
 桃花山の李忠周通。送て三山の人。馬と。吉州と。おんと。歎し。控  
 宋君の救と。誓ひ。賊と。夾で攻べし。と。劉素と。おし。伏し。て。あし。

宋君先父の情と。顧と。あひて。救ひと。奮。素。齒と。渡る。まで。伏。依。恩。と  
 忘る。ま。宋。江。が。え。られ。む。難。く。は。ん。下。先。心。と。あ。ん。と。て。晁。天。王。に  
 ま。え。わ。我。官。し。く。晁。天。王。に。若。て。共。に。商。議。と。遂。ん。と。別。ち。孔。亮。を  
 引。く。晁。蓋。兵。用。公。孫。孫。茶。に。法。既。飲。小。見。え。し。ゆ。呼。延。灼。が。遂。に。素  
 州。小。落。行。て。慕容。知。府。が。幕。下。小。居。し。今。孔。明。を。生。提。し。れ。孔。亮  
 來。て。救。ひ。と。求。る。始。終。詳。に。洩。り。し。く。晁。蓋。を。皆。て。云。魯。揚。友。人。の  
 孔。亮。と。い。ふ。と。親。し。く。さ。る。に。尚。且。と。起。し。孔。明。と。救。まん。と  
 魯。揚。友。人。と。宋。既。飲。の。原。來。孔。亮。が。家。と。の。回。知。る。れ。ど。い。ん。ど。これ。と。救。ひ  
 ざ。し。ん。然。れ。ば。宋。既。飲。の。數。度。の。戦。に。疲。も。あ。る。べ。し。け。度。の。先。陣。と。ちり  
 休。息。も。な。し。我。自。ら。下。小。留。つ。て。出。る。せん。宋。江。が。晁。蓋。君。の。山。陵。の。主  
 ち。り。に。豈。怪。し。し。出。陣。し。な。らん。や。對。に。け。度。の。幸。の。素。が。身。に。干。し。上。り



孔明  
梁山泊  
到了  
因

晁君り。素に習ひぬ。時ハ。孔亮ちびに魯揚。友人が怒り。も悪  
く。あんな。殺す。素。馳向せん。殺人の。取。飲。日。く。山。下。下。て。助。け。あ。ん。や。法  
政。飲。是。時。一。夜。不。着。て。云。乃。ハ。素。亦。於。て。宋。君。小。後。ひ。大。子。の。勞。を。及。す  
べ。一。宋。に。大。小。收。ひ。び。日。ハ。先。酒。宴。を。役。て。孔。亮。を。款。待。宋。に。又。鉄。面  
孔。目。裴。宣。に。命。ト。そ。人。を。借。さ。列。ち。又。軍。に。分。つ。て。山。を。下。り。ん。と  
儀。宣。せ。り。花。榮。秦。明。燕。順。王。矮。虎。と。先。疎。と。一。穆。弘。楊。雄。解。珍。解。寶。  
と。第。二。疎。と。一。宋。に。吳。羽。呂。方。郭。盛。と。中。軍。と。一。朱。全。宋。を。李。俊  
張。拱。と。第。三。疎。と。一。孫。立。楊。林。歐。鵬。凌。振。と。後。疎。と。一。は。又。軍。の。取  
於。然。て。二。十。人。之。若。は。三。子。の。人。を。と。於。以。を。旌。の。取。飲。ハ。皆。晁。蓋。と  
同。く。山。疎。と。ち。り。翌。日。又。更。の。時。分。に。宋。に。も。晁。蓋。小。列。れ。孔  
亮。と。共。小。山。と。下。休。然。て。又。軍。三。子。の。人。を。於。道。秋。毫。も。居。民。と。犯

さ。び。して。已。小。曹。州。に。取。り。り。孔。亮。先。魯。智。深。が。疎。を。に。來。て。約。と  
若。る。に。法。豪。傑。於。て。疎。外。に。出。て。お。迎。ふ。宋。に。が。中。軍。已。に。取。り。し。六。  
武。將。名。遂。に。魯。智。深。楊。志。李。忠。周。通。施。恩。曹。正。ホ。と。列。て。宋。に。に  
見。え。し。む。宋。に。先。智。深。を。讓。て。坐。せ。し。り。乃。知。小。智。深。が。我。久。く  
宋。君。の。大。名。を。聞。け。り。も。縁。熟。せ。し。て。未。だ。魯。教。を。お。せ。ざ。り。し。に  
今日。幸。ひ。に。謁。せ。下。風。に。在。り。喜。望。外。小。出。た。宋。に。是。一。云。素。何。ぞ  
道。小。豆。ん。や。我。の。外。の。和。尚。の。法。徳。を。及。び。若。に。渴。意。に。逼。り。に。  
今日。法。教。を。教。へ。奚。ぞ。帝。君。の。を。さ。ん。や。揚。志。の。又。再。お。し。て  
云。乃。ハ。素。昔。日。梁山。泊。を。下。り。し。時。豪。傑。亦。宋。と。山。疎。に。取。り。し。其  
刻。ハ。此。の。所。好。め。り。て。山。疎。に。取。り。し。乃。今日。天。の。憐。れ。を。蒙。り。宋  
君。と。我。の。微。小。感。悦。扱。り。は。し。宋。に。着。て。云。揚。割。使。の。威。名。ハ。海。小

流人。人皆作。慕。我。今日却。相見。の。晩。と。恨。る。の。も。向。後。孫。心。せ  
 日。う。力。と。保。せ。て。共。に。大。義。小。惡。を。一。と。前。皆。大。小。好。ひ。り。り。比。時。魯。智  
 深。の。笑。く。し。く。洒。寓。と。役。け。宋。江。の。下。の。張。豪。傑。と。款。待。一。く。對。面。を。遂。小  
 乃。聖。日。宋。江。喜。洲。の。残。ひ。猜。負。い。ん。と。同。り。に。楊。志。着。て。云。孔。亮。已。に  
 梁山泊に死して後、約莫六七度、残ひしうを各猜負いまさ、安んぢ、今喜  
 州城より唯呼延灼が武勇と頼のこり、彼とたれ生捉おべ城を破らん  
 と。且夕ふり、兵学究呵くと嘆て云、彼と生活んよ、力城用はして  
 計と用ひべ可きらん、宋江同て云、軍師何分の計の川て、彼と活捉せん  
 や、兵用が云、今彼と活捕は、此のめくくと候云、宋江大に悦び  
 け、策立て、神妙として、昨日人をもみ分と定め、翌朝遂に云と怒り  
 て、城下にあり、四面を圍む、鼓と播旗と懸し、喊の聲、天小響ひ

地小響く。慕容知府へこれと告。急ぎ呼延灼と高嶽して云、乃、今日  
 又梁山泊の宋江自ら軍を引て来り、何とめてこれと探んや、呼  
 延灼が云、相公先心と安んじ、定被は、城に在て地の利を失ひ、早爰  
 何事とぞ做出せん、彼等へ皆水泊の因りて、我と能すと云ども、陸上  
 の軍小、怕るに足ば、未一これと活捕らん、相公城樓小上て、我と  
 一覽し、向へて、遂に衣甲と着し、鉄持と提、一子の人をもて、城  
 外に突おらるに、宋江が陣中より一人の大將を、おの夢に呼、罵  
 て云、乃、汝民と害する、賊友、我一、刃と刎て、街に示流べし、知府  
 汝大將とんるに、乃ち霹靂火、秦明之、一、忽然とて、大に罵て云、  
 汝、潑賊、多年、朝廷の、名、祿と、食、今、自、聖、恩と、背、て、朝、敵と、ち、る、こ  
 實、是、を、罪、を、り、我、先、汝と、提、へ、骨と、抜、ん、と、呼、延、灼、に、下、知、し



れど。呼延灼馬を躍せ、鉄棒を揮て、盡に秦明を赤てくる。秦明も  
同じく狼牙棒を痛くして、お迎へ、おた精紳を揮て、はた十合戦ひが  
た。勝負いまださうし、公知府是を見て、呼延灼より、張るあらん  
とて、急に金せりしり、呼延灼遂に秦明を捨て、城中に引い  
り。秦明敢て是を追ひ、再び陣に回り、宋江先十又里退て  
陣を引ねり。呼延灼へ、知府不對して、云るへ、宋江に秦明を活捕  
んと、夢りしに、何ゆゑ金せりして、軍を收め、おひめ、知府が  
軍久し、我ひおひ、机、あらんと思ひ、先金せり  
替く、休し、あり、秦明へ、系、我、幕下の、統、判、使の、友、そ、あり、し、う、も。  
花榮と、一、日、に、我、お、背、て、梁、山、泊、に、入、ぬ、彼、亦、怪、し、く、殺、す、べ、く、に。  
呼延灼が、公、相、公、心、せ、あ、ん、ど、変、宋、必、定、彼、反、賊、を、捉、ふ、じ、宋、今

彼と戦ひし時、彼持法あり、乱れぬ。明日のまに、知に彼を生捉う。お  
お殺して、相公の号、賢に、字、す、べし。知府が、公、於、軍、累、して、びの、下、ま  
豪傑するに、明へ、先、一、筋、の、た、と、殺、死、ひ、て、三、人、の、使、を、出、さ、す、め、更  
一人の、東京に、参、り、て、援、を、せ、求、め、さ、せ、あ、人、の、隣、を、へ、馳、て、去、と、借、り、  
也。内外より、夾、で、攻、べし。呼延灼、これと、つ、て、相、公、の、号、端、を、明、之、と  
日、ト、り、れ、知、府、に、救、ひ、を、求、む、の、文、書、を、修、へ、て、これ、と、三、人、の、使、を、  
に、与、へ、り、翌、日、未、明、に、一、人、の、軍、士、來、て、呼、延、灼、に、告、る、城、の、水、門、の  
外、に、三、騎、の、敵、を、私、に、城、を、穿、て、中、を、款、ひ、紅、の、袍、を、取、り、  
白、く、お、き、ぬ、右、に、勒、へ、一、款、ひ、し、し、小、李、廣、花、榮、へ、お、小、生、款、へ、衣、  
せ、着、し、相、の、密、扇、を、持、ぬ、呼、延、灼、が、云、紅、の、袍、を、取、り、し、し、城、首、宋  
江、へ、ん、衣、を、穿、ら、る、軍、師、具、用、ふ、て、ぞ、あ、べし、汝、ら、先、渠、十、を、殺、じ

びつとるれ我速に百餘騎の軍を引て彼ホ三人を生捉んとて遂  
 小軍を催し。暗に城の山よりお出る宋は異用花榮三人の一向  
 旗を掲げ城を平る居る如に呼延灼勇を振て近く進みり。久  
 宋はホ三人の驚し。木蔭に立倚てるを勒へて居るに呼延灼ハ  
 もや宋はが面影に跑来り。れハ俄小喊の勢大ひ小怒。呼延灼ハ  
 をめて急ぎ馳甲んとせし。如小堂知らんや。陷坑の上を踏でる人  
 した坑の内に陥入り。は時お迎より又六十の玄出て遂に呼延灼  
 せ生捉し。彼百餘騎の軍は花榮小教づくに射られ。四方方に  
 逃散り。宋は己に本陣に陣し。如小堂も射て呼延灼を  
 ち小堂に嚴しく縛り引出し。宋は忙しく度をもて縛の索を解  
 し。先自ら呼延灼がちと携へて帳中に入り。慇懃に礼を以て呼

延灼を捕し。れ。呼延灼慌て忙しおと困し。て云らる。宋は軍何故  
 我を捕し。や。宋は云。宋堂敢て朝廷に背んや。兵官府より世を逼  
 ら。是己とせ。は。して梁山泊に籠城す。我軍射て心せ。つ。て朝廷  
 の御教免と侍の。と。怒。遠般の軍の威风を犯して多く罪を蒙り  
 ぬ。那。これと免し。や。呼延灼が云。宋と擒となり。者され。若死するも  
 程。極。う。ん。小。何。を。う。將軍の。を。礼。小。馬。ん。や。宋。は。云。宋。何。ら。の。志。を。れ。が  
 妾りに將軍の性命を害せんや。宋は兵官事と將軍小若て。張。を。お。ん  
 と。欲。に。呼。延。灼。が。云。宋。君。今。更。我。小。儀。を。お。ん。と。云。な。ふ。ハ。我。我。宋。系。に  
 困し。と。呼。延。灼。の。と。帝。に。奏。す。わ。り。し。め。んと。飲。し。や。お。う。ん。宋。は  
 が。云。將軍。い。う。ん。ぞ。う。く。東。系。に。困。り。や。ん。や。彼。右。尉。言。保。ハ。系。宋。氣。を。奪。死  
 屍。穿。う。て。人。の。大。恩。を。忘。れ。人。の。小。過。を。記。ふ。將軍。今。若干。の。軍。を。我。我。

夫ひなひぬらぬ。彼豈あてね軍を罪せざらんや。今韓滔彭玘凌振も。  
 已に山陣に止し。大義小聚りし。ね軍も出でて来り。と共梁山泊  
 にる。歌ぬゆんや。ね上府を將軍に譲りて。ねすべし。  
 呼短灼これとて。良久く沈黙して。ちるが。忽ち地上小跪て云。宋  
 國の恩と忘れぬるもの。これに實に宋君の義氣と慕ふ。今日より宋  
 君小隨順して。警鈍の力をそとべし。孫彦く憐れを。密に宋に兵用  
 せしむ。小徳政ぬゆとて。大にねひひ日。先酒宴を役けて。各呼短  
 灼を。對光り。於て青州城を攻て。孔賓孔明を救。や否。決卷小明り。

新編水滸画傳卷之四拾八

